

10
2023

三重病院

ニュースレター

news letter vol.285



- 01 子どもが学校に行けなくなったとき
外来からのお知らせ
- 02 健康フェスタを開催しました
第48回東海地区小児糖尿病サマーキャンプ開催報告
- 03 2病棟の子どもたちの生活のひとコマ
5病棟の生活のひとコマ^⑧
- 04 医療安全(BLS)研修
医療的ケア児・者コーディネータ養成研修
- 05 日帰りスキンケア入院
異動のごあいさつ／今月のみえツウちゃん
- 06 病院からのお願い／外来診察のご案内

子どもが学校に行けなくなったとき

「学校に行きたくない」と子どもから言われたとき、まず何を考えますか。決して、子どもがなまけようと思っている、などととらえないください。“行かない”でなく“行けない”状態に子どもが追い込まれているということにまずは気づけるとよいでしょう。不登校の定義は『何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にある者』となっています。したくともできない原因があります。小児心療科ではその原因を見つける探偵みたいなことをおこなっています。

さて、まずは何を診察するかというと、われわれ小児心療科は聴診器やライトなど道具はあまり使いません。おしゃべりが診察なので、言葉が聴診器みたいなものでしょうか。子ども本人との対話を通じて困っているところ(患部)に触れにいきます。保護者の方の目線から子どもの様子を確認します。さらに、生まれてから現在に至るまでの生育歴も聴取します。これらすべての情報を統合していくと子どもの人となりとなりごとの輪郭が浮かんできます。

また、困りごとの多くは一点で説明できることはめずらしいです。複数の環境因子がからんでいきます。ゆえに、どんな名探偵でも一度の診察では症状が説明できないこともしょっちゅうあります。繰り返し対話をさせていただき、経過をみていき、その道中でだんだん原因の輪郭がはっきりしてきます。

小児心療科では血液検査やレントゲンはあまりしません。代わりに、発達テストや心理テストなど机の上でおこなう検査があります。発達テストはDQ(発達指数)、IQ(知能指数)を数字で表してくれますが、数字はあくまでも指標にすぎません。大事なことはテスト

を通じて子どもの得意不得意を支援者が把握することです。得意なところはもっとのばしてあげる、苦手なところはしっかり支援をしてあげる。学校や家庭の様子だけではわからないことに気づくことができますし、普段から気になっていることを裏付けする大切なデータにもなります。心理テストは、絵を書いてもらったり設問に答えてもらったりして、その結果から子どもの心の機微をとらえたりします。テレビや本でよくある心理テストと似たようなイメージですが、病院でおこなうものは心理学的エビデンスに基づいておこなわれています。



子どもが何かにつまずいてしまったとき、ひょっとして困っていることがあるのでは?と一緒に立ち止まって考えてあげてください。実は、子どもにとっての名探偵は一緒に暮らしている保護者の方です。周りの大人のそういう姿勢こそが子どもの上手な甘え方につながり、より健康的な自己イメージにつながっていくと思います。(小児診療科 東 礼次郎)

外来からのお知らせ

休診

- [アレルギー科] 11/7(火) … アレルギー科医師
- [耳鼻咽喉科] 11/9(木) … 増田
- [耳鼻咽喉科] 11/10(金) … 臼井
- [脳神経内科] 11/10(金) … 町野

代診

- [小児科] 11/1(水) … 山田⇄岩井

当院の都合で急遽休診が出る場合があります。気になるようでしたら、受診当日、当院までお問い合わせください。